

## 第1部門A 伝統・日本

### 菊切手(無加刷) ふじなみ せいじ 藤波 誠治(東京都)⑤

長年、菊切手を楽しんできましたが、今年は明治32年(1899)1月1日に菊切手が発行されて125年ということなので久しぶりに菊切手を楽しんでみました。

明治32年1月1日の封書の使用例、6銭切手貼りの速達、3銭切手2枚貼りの速達、別配達の使用例などをご紹介します。3銭の切手帳は銘版付きのものは、針のつけ方が逆になっており、不思議に思っております。

**菊切手(無加刷)**

明治32年(1899年)1月1日、それまでの小判切手とは全く異なるデザインの新切手、菊切手のシリーズが登場した。料金についても、それまでの葉書1銭、書状2銭から、4月1日には葉書が1銭5厘、書状が3銭に改定された。この菊切手シリーズの基本的な色調、および使用例などを幅広く展示した。色調については、主に「日本切手カラーガイド 菊」(日本郵趣協会)を参考にした。

**菊切手関連年表**

|                    |  |
|--------------------|--|
| 明治31年(1898年)12月1日  | 菊組林1銭葉書発行  |
| 明治32年(1899年)1月1日   | 菊切手 2銭 4銭 10銭(外国宛で料金用)を発行                                    |
| 明治32年(1899年)4月1日   | 葉書料金 1銭から1銭5厘に、有封書料金を2銭と2銭を 4角と3角に改定<br>5厘切手発行(加刷で葉書の料金額に対応) |
| 明治32年(1899年)5月25日  | 1銭5厘の青緑葉書発行  |
| 明治33年(1900年)1月1日   | 額面加刷、支差加刷切手発行  |
| 明治33年(1900年)10月1日  | 書留料金を9角から7角に改定   |
| 明治34年(1901年)3月末ごろ  | 主要局で丸二印の使用を開始  |
| 明治35年(1902年)12月21日 | 額面加刷専用封筒使用開始   |
| 明治36年(1903年)1月1日   | 額面加刷の使用開始  |
| 明治40年(1907年)4月1日   | 無封書料9角と2銭とする   |
| 明治43年(1910年)1月1日   | 丸一印を使用していた郵便でも額面加刷の使用開始                                      |
| 明治44年(1911年)2月1日   | 速達制度開始 同一郵便区市内6銭   |

**目次**

|       |              |       |              |
|-------|--------------|-------|--------------|
| 1     | 目次           | 49-50 | 25銭          |
| 2     | 見本           | 51-52 | 50銭          |
|       | 明治32年1月1日発行  | 53-55 | 1円           |
| 3-6   | 2銭           | 56-60 | 明治33年10月1日発行 |
| 7-10  | 4銭           |       | 1銭5厘 灰味青     |
| 11-16 | 10銭          |       | 明治34年3月27日発行 |
|       | 明治32年4月1日発行  | 61-64 | 1/2銭         |
| 17-20 | 5厘           |       | 明治39年5月15日発行 |
| 21-26 | 1銭           | 65-68 | 1銭5厘 にぶ黄     |
| 27-30 | 3銭 暗い赤集      | 69-72 | 3銭 赤         |
|       | 明治32年10月1日発行 |       | 明治40年8月20日発行 |
| 31-34 | 5銭           | 73-76 | 6銭           |
| 35-38 | 8銭           |       | 明治41年2月20日発行 |
| 39-42 | 15銭          | 77    | 5円 10円       |
| 43-48 | 20銭          | 78-80 | 切手帳          |

